

御力に生かされる

(エペソ6・10)

主の年二〇一九年初めの主日礼拝です。新年礼拝では今年の年間聖句から、また今年の教会標語を説教題として語らせていただきます。

一、当時の世界観

聖句に耳を傾けてまいりましょう。エペソ人への手紙6章10節です。《終わりに言います。主にあつて、その大能の力によつて強められなさい。》とあります。《終わりに言います。》は、それまでに語ってきたことを受けて書いている言葉ですから、さほど重たい意味はないと思われまふ。注目するべきは、後半の《主にあつて、その大能の力によつて強められなさい。》です。《その大能の力》とは何でしょうか。口語訳と新共同訳は《その偉大な力》と訳出しております。フランススコ会訳は《その力強い威力》という日本語を充てています。エペソ人への手紙は、私共に「あなたがたは、主にある大能の力が必要である」と語つています。では、エペソ書が語っている《その大能の力》は、何を意味しているのでしょうか。それは、当時の人々の世界観に係属しています。当時の世界観

は次のようなものでした。2章1節、2節をご覧ください。《あなたがたは自分の罪過と罪との中に死んでいた者であつて、そのころは、それらの罪の中にあつてこの世の流れに従ひ、空中の権威を持つ支配者として今も不従順の子らの中に働いている霊に従つて、歩んでいました。》と語られています。当時の人々の平均的な世界観は、天空には悪霊がさまつていて、それらの悪霊が様々な形で自分たちの生活に影響を及ぼしている、というものでした。こういうわけで教会は、イエス・キリストを信じつつも、霊の戦いに精力を注いでいたことが、6章11節以降を読むときに分かります。では、今日はどうなのでしょう。悪霊が自分たちのまわりにまん延しており、悪霊の影響を受けないように常に戦う必要があると受け止める方は、どちらかと言えば少ないことでありましよう。だからと言つて、悪魔や悪霊の働きがなくなつたわけではありません。様々な形で、悪魔や悪霊が私共の生活に入り込んで来ていることも事実です。

二、御力に生かされる

皆さまは、出口のないトンネルの中に入ってしまったような経験をしたことはないでしょうか。出口が見えない、出口が見つからないのではなく、どう考えても「出口がない」のです。忍耐し続けられたら解決するような問題ではあり

ません。そのような場合に、何が必要なのでしょうか。それは、神の言葉に立つことです。主の御力がどれほど偉大であるかを、聖書の言葉によつて確認して行くことです。エペソ書1章17節から20節前半までを見てまいります。

《どうか、私たちの主イエス・キリストの神、すなわち栄光の父が、神を知るための知恵と啓示の御霊を、あなたがたに与えてくださいますように。また、あなたがたの心の目がはっきり見えるようになつて、神の召しによつて与えられる望みがどのようなものか、聖徒の受け継ぐものがどのように栄光に富んだものか、また、神の全能の力の働きによつて私たち信じる者に働く神のすぐれた力がどのような偉大なものであるかを、あなたがたが知ることができますように。神は、その全能の力をキリストのうちに働かせて、キリストを死者の中からよみがえらせ、》とあります。

《その大能の力》とは、キリストを死者の中からよみがえらせた神の力です。その力が、イエス・キリストを信じる者に働くというのです。ですから、イエス・キリストを信じ、信頼する。そこに、すべてがかかっています。ひと度、出口のないトンネルに入つてしまつと、私共の力ではどうすることもできません。祈るうが、忍耐をしようが、キリストの御名によつて命ずる祈りをしようが、現実には動きません。ですが、神はキリス

トを死者の中からよみがえらされた、その同じ力をもつて、あなたに、私に働かせるのです。それを信じることはできるでしょうか。できると思いますが、むずかしいことではありません。だれにでもできます。それが、御力に生かされることであると、受け止めます。

三、悪魔の策略を知る

11節に《悪魔の策略》という言葉が現れます。悪魔の策略とは何なのでしょう。それは、人をまことの神から遠ざける働きです。言い換えるなら、人をキリストから遠ざける働きです。さらに、言い換えるなら、「罪」の働きです。神に従うことが馬鹿らしく見えてくる。キリストに従うことが愚かに見えてくる。それらは、罪から来る誘惑の段階ですが、罪が熟すると神との断絶が生まれます。そうならないためにも、悪魔の策略を知り、早めに悪魔の働きを見抜き、自分を軌道修正することが必要です。

イエス・キリストを信じるとは、自分の力ではあるものではありません。自分の限界を認め、必要とあらば、信仰の友に祈つてもらふこともたいせつです。主の年二〇一九年は、自分の力や努力ではなく、主イエス・キリストがもたらされた御力に生かされることを目指す一年とされようではありませんか。